

ほん屋

2017(平成29)年1月
6号店

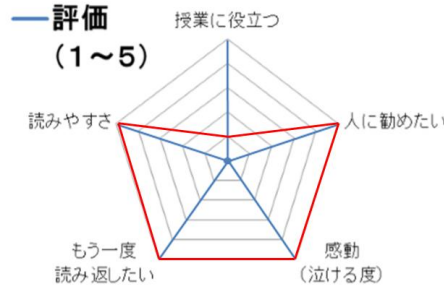
店主：学生図書委員3年
(義村・仲間・涌井・池原)

長期休みである冬休みも終わり、また新しい一年がやってまいりました。始まるときには長いと思われる一年は案外あっという間に過ぎてしまうものです。今年はどうのような一年になるのか、今回のほん屋はあなたの一年に新しい発見を与えるかもしれない本を紹介させていただきます。また、図書館には今回紹介した本以外も数多くの本が用意されております。そのなかにはあなたにとって大事な出会いがあるかもしれません...

※この発行紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。
"ほん屋" of the students, by the students, for the students.



情報通信システム工学科
教授 高良 秀彦



アンマーとぼくら
(有川 浩)
請求記号 913.6 / A71

この小説は、有川浩さんがかりゆし58の「アンマー」に着想を得て執筆した物語で、県外で暮らす主人公が沖縄に帰省して母親と過ごす三日間を描いています。私は昨年40年ぶりに沖縄に帰ってきましたが、沖縄について知らないことが多く戸惑ったことがありました。そのときこの本に出会い、沖縄の文化、暮らし、そして人々のすばらしさを知ることができました。また、この本では親子の絆のすばらしさも有川さん独特の不思議で心地よい世界観で描かれています。この本を読んで、故郷沖縄、そしてあなたの大切な人を想うきっかけになればと思います。

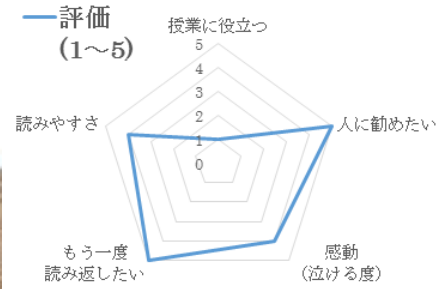


本科3年
情報システム工学科
知名 紗也加

オーダーメイド殺人クラブ
(辻村深月)
請求番号 913.6 / Ts44

『これは悲劇の記憶である。』
辻村深月さんの紡ぐ、女性特有の柔らかい物腰で的確に心の秘密を暴き刺し

かかるような文体は、誰もが経験した未熟で大人になんかなれない尊い一瞬をより生々しく描写している。多くの人が理想とする瑞々しく透き通ったものではないが、この物語は誰の胸にも息づいている青春でうっかり自分の姿を重ねてしまう。それゆえに体を振るほど痛い物語だ。息苦しくそれでいて満たされた今を私たちは生きていて、生きていた。大人にも子供にもなれないあなたに、ぜひ手に取ってほしい。ある少女Aが走りぬげる青春物語。

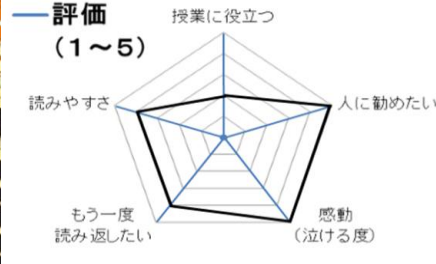


本科3年
生物資源工学科
涌井 菜摘

カシヨン幕末を走る
(高杜一榮)
請求番号 913.6 / Ta44

皆さんは、幕末期の日本のことをどのくらいご存知でしょうか。幕末もののドラマやアニメでは日本とアメリカ、そしてイギリスが目立っていますが、実はフランスも開国に大きく関係しているのです。

この本は、実在したフランス人宣教師の"カシヨン"が町で見かけた"お梶"を見初めて妻にし、棄教し、通訳士として幕府とフランスの互いの仲を取り持ち、そして葛藤する様子が書かれています。目まぐるしく変化する激動の時代で、日本とフランスを愛する一人の男はどのように生きるのでしょうか。鉛が飛び交い、白刃が閃き鎬を削る血なまぐさいイメージの幕末ですが、水面下の静かな情報戦もあるのです。貴方の幕末のイメージが変わるかも...?ぜひ手に取ってみてください!



✓ 図書館は静かに利用する施設です!

最近、移動授業の際おしゃべりしている学生が多く見受けられます。

図書館ではなるべく静かにしましょう!



50円
切手

店主のつぶやき

あけましておめでとうございます。

昨年からはまったほん屋も

新しい年を迎えることができました。

皆様に良い本との出会いがありますように。

今年もほん屋をよろしく願いいたします!